

飛
端

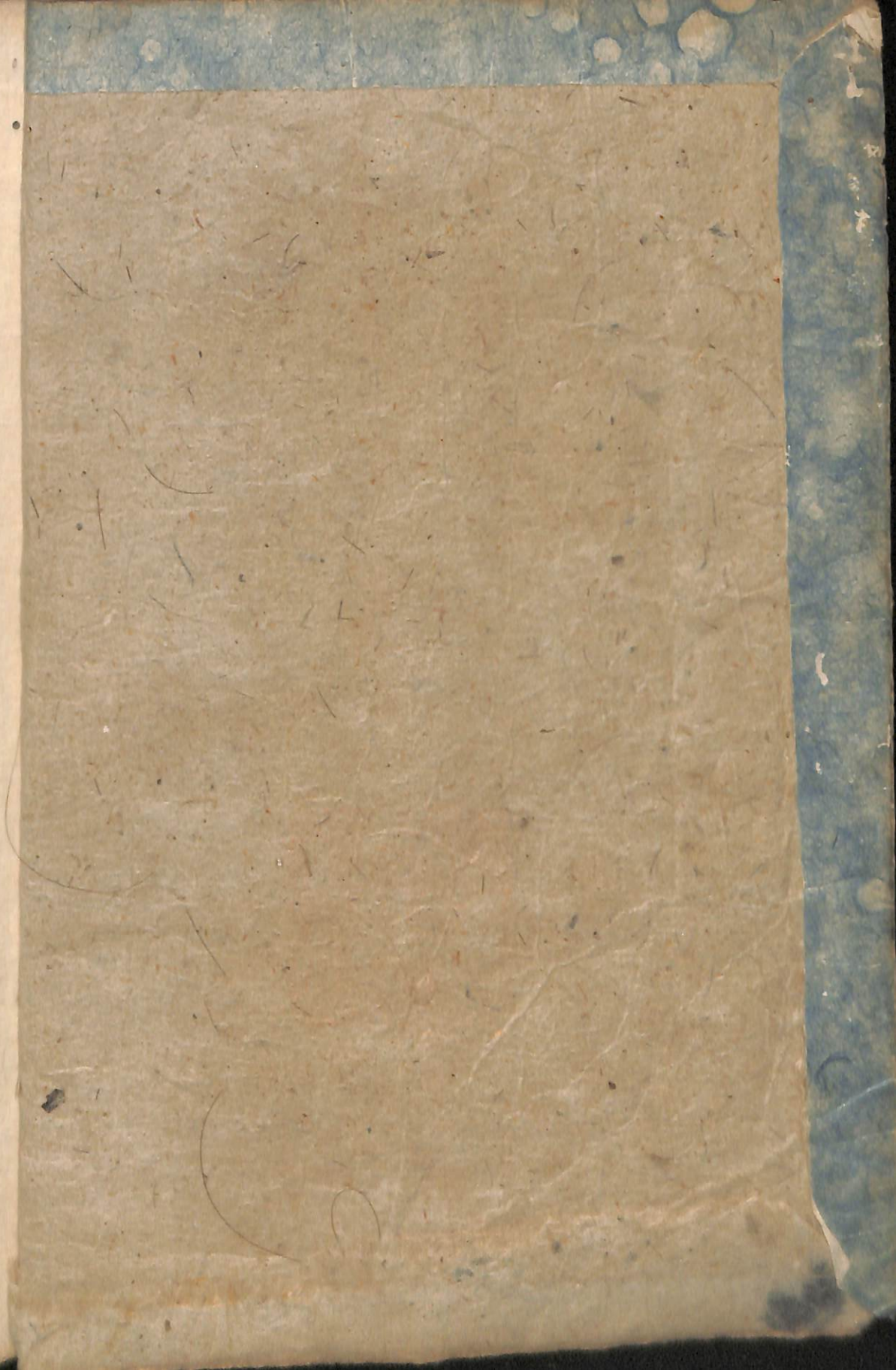
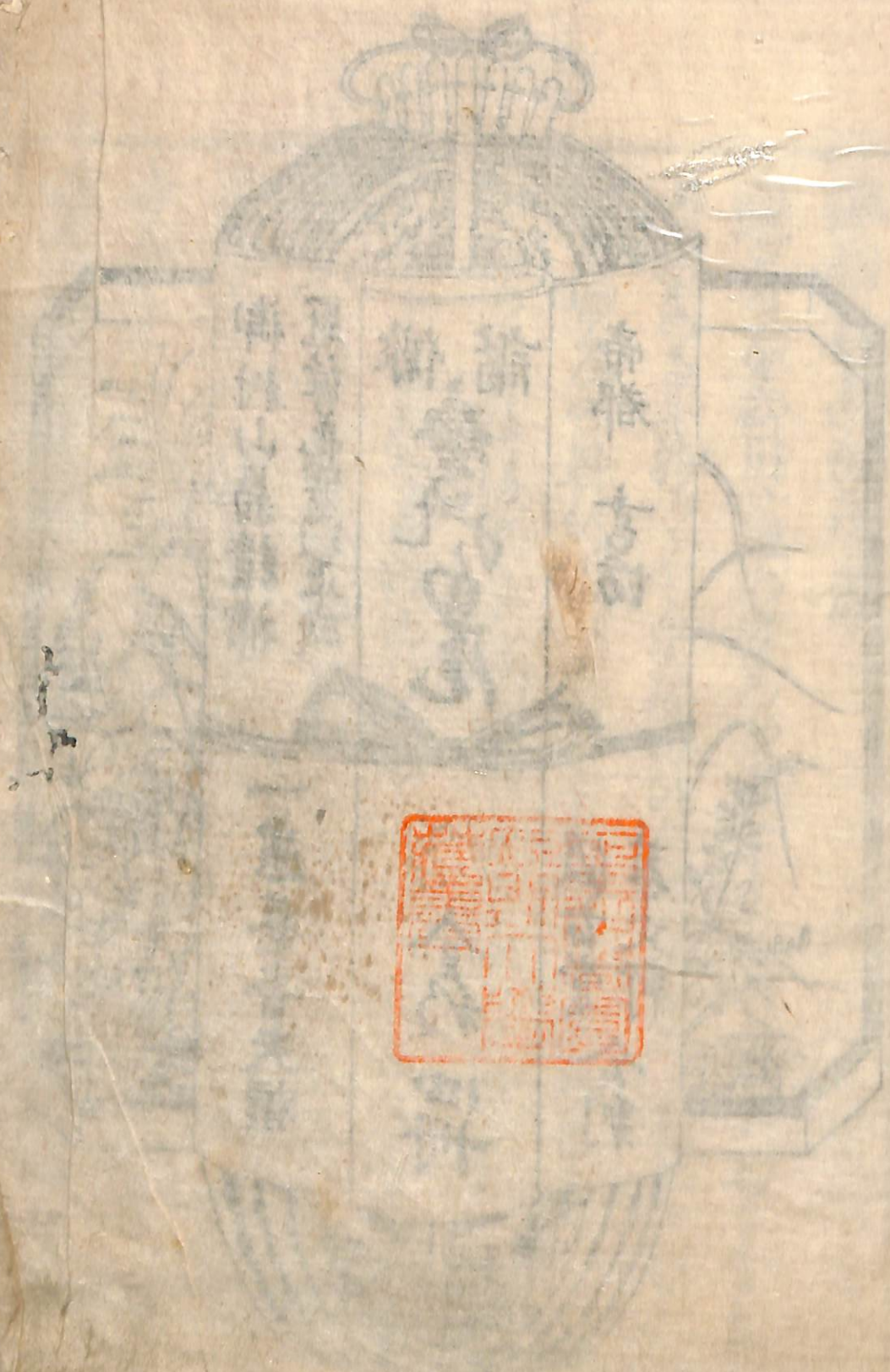
石
の
白
尾

乾

911.3

夕

乾





俳諧集の白尾序

連寄中武目ハ誰の定め也き——とそ始と云——と云

山清ある小初——永録の比六波羅書門院と云々

紹巴也席の興ありと云と嘉成——と清あると云云

トありと後後宇多院建治二年鎌倉殿なり切つて

大細なる相と書作あり——と中細なる友に換者と云

と云ふ是世より不式と云と後善光園抄の良基云

無安と云は改めと加と云つて成初式と云と後後花屋

年酒元年後後書門院白兼良云——と云ふ

あると云ふ——と云と後後花屋文無元年牡丹の書

あると云ふ——と云と後後花屋文無元年牡丹の書

勅とつけ出せし院殿と相違ありと書加ふと新式
と云ふも一世は用ひ玉の新式を之建治より凡そ
六百年と云ふと雑諧の式目より凡そ雑諧の連
寄は上古正連寄の奥より凡そおろしき一とありしは
松永貞徳翁より雑諧花下乃祖とありて因て新式
今書と宗々一雑諧市傘と海集より一毎席の規矩
とありは凡そ彼等の式目ありと云ふと後世は市
傘と鑑とせし人々や近世迄下等あれは市傘の腸を
探りて雑諧の新式一帖とありと云ふと幸蒙ふ事と雑諧
祖の式は一隅と云ふと三隅と云ふと一と云ふと凡そ

屢増補と云ふと一と云ふと凡そ云々余
貞徳末流の正式は雑諧日用言語の文字亦云々
安記一と云ふと一と云ふと撰者雑諧乃意ありと云ふ
雑書ありと初人の云ふと一と云ふと凡そ雑諧の式目
諸定指の例は後い且云々御射の箱の奥より
凡そ云々年来虎等と云ふと一と云ふと増補一と云ふと
凡そと凡そ加筆合ふと一と云ふと二隅と補ひと云ふと
雑の新式と云ふと唱ふと云ふといふ書院は凡そ日式人
等の白尾と持来と云ふと凡そ凡そ凡そ凡そ凡そ凡そ
凡そ凡そ凡そ凡そ凡そ凡そ凡そ凡そ凡そ凡そ凡そ

等ありありとありと余あるは非と此等の云々
一見の人私あると分りありと云々の一物とあり
ゆゑに本をさへ

東漢源士一巻

青史誌

凡例

一先書新式委く海とく人とも再び御筆は関し合
をふふと省く関と補と記と

一先書を條目混雜せり因く類と合せし記と故
小増補の類とを序とせしと

一御筆は海と増補とを右人の云より代
字の色家の定めありとせしと

一俗は海とく此類の類とを註とせしと
と括しと記と

一本書は委くわくありと増補は求むる一巻

物記と一統を相の物記と

○と云席の清

一 一丁の物の鬼女就虎指と云ひを記物一丁一丁
みくられ席と云ふ二丁あり一丁一丁は不敷

一 百部は二丁の物の折と清く一丁を白の清りをとるの折并
てあるも不若一丁を不若と云ふと云ふ

一 百部は二丁の物の折と清く折を折と云ふと云ふ一丁
の物多く清くあると云ふと云ふと云ふと云ふ

一 二丁より八丁の物もあると云ふと云ふと云ふと云ふ

一 七丁を二丁の物と面と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

の物の面よりても式のてて折紙物と云ふと云ふ

一 折は二丁の物と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

一 二丁の物の折は二丁の物と云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

一 年中二丁の物と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

一 二丁の物の折は二丁の物と云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

一 二丁の物の折は二丁の物と云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

○新装く詞
 ○無常く詞
 ○迷懐く詞
 ○人偏く詞
 ○急く言ふ
 ○夜分く詞
 ○居所く詞
 ○山麴く詞
 ○水巴く詞
 ○和哥く詞

離譜鷹の白尾上

平安山口羅人先生門人

東嶺

青史著述

○俳道の三祖

え祖

逍遊軒 貞徳

園田長官 守武

山サキ

一夜庵 宗鑑

松永氏系師の人俳乃の鼻祖と
 仍年八十と累承貞二年以後と
 荒木田氏勝州山田の休官人
 仍年祥あり天文十八年以後と
 支那氏江州の人修く本黨人
 永正十一年太能波と著と

○系陳七傑仙

松翁	立圃	明・口氏和記・年七十一・累 宣文十二年・没
入通	維舟	松氏和記・年七十・累 宣文八年・没
雲水	西武	山本氏和記・年七十二・累 宣文十二年・没
鶴冠	令徳	和記・年七十・累 宣文十二年・没
一書	貞室	和記・年七十・累 宣文十二年・没
捨娘	季吟	山本氏和記・年七十・累 宣文十二年・没
宅心	梅壺	和記・年七十・累 宣文十二年・没

○古松の教白

高き木やぬの里は秋の	特記	青柳
名へと松庭をなす餅屋に	細川	宗祇
花芥子の葉をさす夕陽に	堀江	知温
雲の袖はひくしの里に	中松	宗家
とひさしたる松の葉に	細川	玄旨
梅の花をさす里に	法眼	紹巴

○二祖の教白

高き木やぬの里は秋の	松永	貞徳
名へと松庭をなす餅屋に	松永	守武
花芥子の葉をさす夕陽に	松永	宗徳

○七仙の歌

夏の夜にみづやとせれ月のろ
 そい又霧とふふとや風袋
 長生に地割かき出と試等か
 門香のふ百枝にふ代と二枝のま
 紫や焼那を消してすゝく
 かくせくまれふふふ年のま
 するーやふは本のうろ紙筆のま

○諸名家歌

一藁は耳より年を雨の年

聖く口紀

左圃

松江をれ

維舟

山井家系

西武

鶴冠井

良徳

安原正幸

貞室

水村信眼

孝と

高嶽

梅盛

秋田勾当

中一

いづろー かつういりうふ菊の酒

太河

正史

千金の價へまれあらねうか

秋田

安静

山万葉ふてくふとや御代のま

夏存

貞氣

秋風やまごふ秋のまごふも

秋田池田氏

正武

本の葉さくま月夜の時ふか

秋田池田氏

日能

うは霧や音の葉れいれ

未吉

乃節

舟のり船橋の葉まふや棹の葉

片桐

良保

波付て花雪やうはと枝枝四

多例

宗畔

種く藤壺の葉まふや音賢象

石田

元知

花盛り 唐ふもあふと音賢山

江戸石田氏

未得

本毎方 ちし梅しや 咲く梅
 甚ふけや せん国出た門の春
 ちのあふ水はけき ちの ち
 室の 氷系に ちしと ちし梅
 ちしと ちしと ちしと 梅の ち
 梅 ちや 二か ちと ちし ち ち
 名月や と ち ち ち ち ち
 室の ち ち ち ち ち ち
 今日と ち ち ち ち ち ち
 案の ちや ちも ちも ち ち

月 中 崎 氏
 月 赤 崎 氏
 月 高 崎 氏
 甚 本
 梅 口
 高 村
 俣 崎
 赤 崎
 高 尾
 池 田

貞 直
 徳 元
 玄 礼
 瑞 芳
 竹 夢
 和 及
 位 徳
 如 泉
 似 弘
 之 如

主 ち ち ち ち ち ち
 唐 崎 や と ち ち ち ち ち
 虫 室 の 果 ち ち ち ち ち

○ 檀 林 風 の ち

ち ち の ち ち の ち ち ち
 山 ち ち ち ち ち ち
 網 ち ち ち ち ち ち
 甚 の ち ち ち ち ち ち
 世 の 中 ち ち ち ち ち
 又 ち ち ち ち ち ち

中 尾
 丸 本
 丸 山 崎
 大 坂 崎 氏
 月 前 門 氏
 月 井 本 氏
 俣 丹 本 氏
 大 坂 推 本 氏
 月 小 崎 氏

船 山
 映 山
 其 讀
 宗 因
 中 年
 和 崎
 愁 貫
 旧 徳
 来 山

先鋒少後不程

葛城の黒檜の歌

只此清風

とてあふふく

を二つあるやうに

▲入日ハニ夕タ月ツキトツク
二ニ面オモテハハ人ヒトトツク
船フネトツク

○入日 一ツ時分非ス夕月ト夕陽
又若き日本入日あり面法
○言 二ニ面オモテトツク
二ニ面オモテトツク

○一文字 訓音ナシトクモ二ニ面オモテトツク
二ニ面オモテトツク
二ニ面オモテトツク

○今 今更一ツ時分ト又トクモ
二ニ面オモテトツク

○増 海鼠 難ニ過ス類とのろろニ九禽獸との小食
あはれ生類とのろろ草植物とのろろ

○急 二ニ面オモテトツク
二ニ面オモテトツク

○硬生草 二ニ面オモテトツク
二ニ面オモテトツク

○花 二ニ面オモテトツク
二ニ面オモテトツク

○瑞離 二ニ面オモテトツク
二ニ面オモテトツク

○軒 二ニ面オモテトツク
二ニ面オモテトツク

○系 二ニ面オモテトツク
二ニ面オモテトツク

○軍 二ニ面オモテトツク
二ニ面オモテトツク

○初 二ニ面オモテトツク
二ニ面オモテトツク

○級 二ニ面オモテトツク
二ニ面オモテトツク

○送者結物所 二ニ面オモテトツク
二ニ面オモテトツク

○鰯 二ニ面オモテトツク
二ニ面オモテトツク

○新 二ニ面オモテトツク
二ニ面オモテトツク

○歸 二ニ面オモテトツク
二ニ面オモテトツク

▲九テ者師・士付
二ニ面オモテトツク

法華あり

陰ク付くこと

石學記

とん基子抄

五
（五）（五）

エニシオのふり

花の唄 ボウシ
天竺之花も植物も
雅又衣類も針姫

王ふりう水ふりう
ととゆれも甚の
るん

羽づくしのふんと
とふ付羽とふと
とふと

鳩やういふとく
うく鳩の鳴き声と
うく音と風と
とく又鳩と
とく中抄に
あり

△
卷之四
欠

○蓮の蓮
人ふふと季も
あふもあふと

○ 生その字な水みづ也なり

○
燭ハシ
燭ハシ
水面に燭の影を映す。燭の光は水面に照り、水面は鏡となる。

○
柜ハシラ
石上二櫃立居我ニ白玄

ハカリコト
○ 某 ところを言ふ
伊勢と二白姫と

○ 物久て三ふき 夜曉^{ハル} 雪曉^{ハル} 物久て三ふき
夜雪月冬 夜雪 五ふき 物久て三ふき

○^{ハテ}果
二を去る所の果只そを
をり。たゞは木石

○ふ ハヤニ 三きんやーいてもは
ハヤニ 三きんやーいてもは

○
日日
三子孫之世也
吾相物生於地又二

○羽ハ　羽ハ面オモテ玄ソノの字ナリニハ玄ソノ
風フウ倅ササニハ玄ソノ省セウの字ナリ不フ獲カク

○むろ
七るきんろ、むろと
二るきん

○
び
二るきとてみちう候なり
二るきとてむぐむぐその類

○ハナ
七右左衛門、は上あや
下のふくし三子

○
乙卯
乙卯

增
○
字万是
中万是

○
九^ハの杖^ノ胸^ノの内^ニ今^レ

○
哈
水足物上ハル哈國あり
非久。崔哈トタル量秋之

○ 襖 ハカマ
 下舐るゝ又下舐るゝ
 又又又又

針

○鼻ハナ 同耳鼻にのち倅お紙姫

○母
子とある

○ 𠂔 母 下子孫又

○
之
物

○排
後七句是

に

○
屋^{ニハ} 二折久^ニ予^ニてあり居^ニ之^ニ屋^ニ訓^ニ之^ニの外^ニ今^ニる^ニあり^ニ場^ニ
面^ニ玄^ニ寺^ニ皇^ニ后^ニの^ニ庭^ニへ^ニ名^ニ所^ニと^ニ非^ニス^ニ 前^ニ載^ニ坪^ニの内^ニ相^ニ臺^ニ名^ニ臺^ニ面^ニ始^ニ之^ニ

▲燎ハ秋多ノ十月、
ハ火ノ起ル火作
ニ百々ノ火ハ物
ニハ一ノ薪或ハ肉
木付ノ火ノ火

▲鶏合ニ夜食
のゾ
▲別ノ名ニ
▲夜食
▲園路ノ名
▲夕つけ名
▲ハチノ名
▲名ノ名
▲くぐりけ
▲名ノ名
▲初名ニ夜食
▲初名ニ夜食
鶏ノ名ニ

○夜ノ築山 山ノ頂ニ
ニ百々
○夜ノ名ニ
ニ百々
○夜ノ名ニ
ニ百々

○燎 火ノ起ル火作
ニ百々
○燎 火ノ起ル火作
ニ百々

○場 火ノ起ル火作
ニ百々
○場 火ノ起ル火作
ニ百々

○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々
○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々

○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々
○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々

○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々
○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々

○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々
○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々

○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々
○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々

○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々
○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々

○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々
○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々

○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々
○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々

○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々
○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々

○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々
○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々

○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々
○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々

○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々
○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々

○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々
○鶏 火ノ起ル火作
ニ百々

△清る秋の麻るる
△赤く清るる如く後
わたり今つるま
但形との清物と
清るるあふく

△ふつとま

廿日ま

ろろろま

ろろろま

ろろろま

世代ま

大牡丹のま

郭公 巢のま

子規 杜宇

杜鰓 百鵠

不如歸 くらげ

大郭公のま

旧の田舎とま

くくくま

△清るる

△夜を清るる

△天を清るる

△今星七のま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

△まのま

は

○濁る

○若る

○丹る

○似る

○揺る

○隣る

○俄る

○二

○二

○二

○牡丹

○牡丹

○牡丹

○牡丹

○牡丹

○郭公

○郭公

○郭公

○郭公

○郭公

○積る

○積る

○積る

○積る

○積る

○星

○星

○星

○星

○星

○星月夜

○星月夜

○星月夜

○星月夜

○星月夜

○星と唱る

○星と唱る

○星と唱る

○星と唱る

○星と唱る

○星の位

○星の位

○星の位

○星の位

○星の位

○佛

○佛

○佛

○佛

○佛

○細

○細

○細

○細

○細

○増

○増

○増

○増

○増

○火

○火

○火

○火

○火

○火

○火

○火

○火

○火

○火

○火

○火

○火

○火

布袋家祖傳
景德傳灯錄三曰
布袋和尚名契此
福州布袋縣人也

[illegible]

頰ほ頰ほ 面つ頰ほ 面頰ほ 面頰ほ

○帽^ホ子^コ 下^カ 新^{シン} 折^セ 走^{ソウ}
面^{メン} 走^{ソウ}

○ 布衣 大徳 大徳 大徳

○ 本刀折去
ボウヤウ
靱面

○ 祠 王 宣 公

○順

○ 益

○^{ボジ}紀^フ丈^フ人^フ俤^フ非^フ不^フ出^フ書^フ
紀^フ佐^フ之^フ何^フ何^フ

[illegible]

○^{本口} 母衣 母衣衣衣衣衣
衣衣衣衣衣衣

人理之說 ○ 本 二 版 當 雪 誌 二 百
 卷 之 四 終 之

○ 花 菜 子

○ 卯 子

○ ^{ホコル}誇 ^{ハコル} 面 ^{ハコル} 娘

○ 空 ^{ホウコウ} 万 〇 換 ^{ホウコウ} 万

坡

○ 秋

○ 卷五

○ 分

○ 三 三

（二）^三 〇

25/12/22

[Handwritten signature]

○中寄本款取事
此際余は高の姫や侍に安んじ
ぬを姫求の安んじぬ候とて

[illegible]

○**臍** ハツ系・臍をさすの ○**可** ベくばる・示はる ○**備** チキム 今

増 ○**辨賊天** 天の字ニるま ○**糸當** チキム 今

○**練血** チキム・極とある・極とある ○**蛇** チキム 今

○**減** チキム ○**重** チキム ○**何** チキム

○**忍** チキム ○**忍** チキム

○**忍** チキム ○**忍** チキム

と

○**虎** チキム 今

○**床** チキム 今

○**床** チキム 今

○**床** チキム 今

○**床** チキム 今

○**床** チキム 今

○**床** チキム 今

▲照付火事同く
夏の夜ねとく
し〜麻と強

○**注燈** 俗に家門の注ひくゝ無膳ふれやうに初ひつを
かひく注燈し〜さうの白あゝの夜をあらと

○**常燈** 夜を非十二燈とす
照付て燈面を火と注ひ
たゝの燈の肉

○**鳥** 只て其の鳥つ小鳥材鳥の内づもけりあつて花をト
以上各名の名めり訓言を其の内面とてあつて

○**鳥** 雄鴨雀とくけ木の名の鳥付く〜さう〜さうとく
ひよるが鳥木の鳥と鳴く三をさ〜禽獸とて鳴く三をさ

○**宿鳥** 子トリ 其の内へ夜を水鳥
麻ル夜をあらと

○**鳥** 其の鳥とくも
テウモク 獲のふれ其の内を
其れと二をさ

○**鳥の鳥** 古き鳥の鳥とく
其の鳥とくも
其れと二をさ

○**鳥の羽** 風傳三をさ
羽の風傳三をさ

○**鳥の鳥** 鳥の鳥とく
其の鳥とくも
其れと二をさ

○**鳥の鳥** 鳥の鳥とく
其の鳥とくも
其れと二をさ

○**戸** 訓言を人て其の戸とく
其の戸とくも
其れと二をさ

○**戸** 戸の戸とく
其の戸とくも
其れと二をさ

○**上戸** 人偏非とく
其の戸とくも
其れと二をさ

○**鳥** 鳥の鳥とく
其の鳥とくも
其れと二をさ

○**鳥** 鳥の鳥とく
其の鳥とくも
其れと二をさ

○**年** 只て年とく歳の子とて其の肉とく
二とてとくはさうの年とく

○**年** 年本熊年の流
其の年とく
其れと二をさ

ことづき安んじ
 せふあるを
 ありきあるを
 清くありき
 間とありき
 はきられも
 只の戯言とあり
 ぬんぬん
 うね

○友

○水色綱

○宿世

○伯トウ

○
田 トムリ

○
五

○ 音 とらふ

○吊 トムラフ

增

田字ありく割きありて三ヶ所あり
田字各ありていふほどをいふより一

○
郎

○
本

○
中書

○ 卷上

○
解

○ 陸

○
時

○
卩

○
小

11/2/1911

○
切

○
花

○ 正

レイ
びん

○
に

て

○飛

○
イ

○

二五
去人

何れと生てた

二方を但衆たるをちうふくむ
りての至極物植物たる面を

子色秋之

造る所なり

老
又若く人倫、服^{オカシ}長
子^{オカシ}を去て、面去

▲^調いそみ重服
痛のいそ

▲^いそい

▲^和和、刺
面を、刺

▲^いい
い、い

▲^王王、日
王、日

▲^綿綿、物
綿、物

○^後後、人
後、人

○^後後、水
後、水

○^綿綿、物
綿、物

○^本本、物
本、物

○^王王、帝
王、帝

○^我我、人
我、人

○^家家、人
家、人

○^家家、虫
家、虫

○^後後、物
後、物

○^子子、田
子、田

○^綿綿、物
綿、物

○^本本、物
本、物

○^王王、帝
王、帝

○^我我、人
我、人

○^家家、人
家、人

○^家家、虫
家、虫

○^木木、物
木、物

○^後後、物
後、物

○^蒙蒙、物
蒙、物

○^童童、人
童、人

○^綿綿、物
綿、物

○^服服、物
服、物

○^漏漏、物
漏、物

○^子子、物
子、物

○^後後、物
後、物

○^子子、田
子、田

○^綿綿、物
綿、物

○^本本、物
本、物

○^王王、帝
王、帝

○^我我、人
我、人

○^家家、人
家、人

○^家家、虫
家、虫

○^{ワビ} 字云々

○^ワ 字云々

○^ワ 字云々

○^ワ 字云々

○^ワ 字云々

○^ワ 字云々

○^カ

○^カ 白の爲りまじりたる物等のか不難ひふ今下折よりて
あふりぬるぬるの二つを云

○^カ 杜若 万葉集にありて云々
○^カ か不^カ 万葉集にありて云々

○^カ か不^カ 万葉集にありて云々
○^カ 顔 万葉集にありて云々

○^カ 顔 万葉集にありて云々
○^カ 顔 万葉集にありて云々

○^カ 顔 万葉集にありて云々
○^カ 顔 万葉集にありて云々

○^カ 顔 万葉集にありて云々
○^カ 顔 万葉集にありて云々

○^カ 顔 万葉集にありて云々
○^カ 顔 万葉集にありて云々

○^カ 顔 万葉集にありて云々
○^カ 顔 万葉集にありて云々

○^カ 顔 万葉集にありて云々
○^カ 顔 万葉集にありて云々

○^カ 顔 万葉集にありて云々
○^カ 顔 万葉集にありて云々

○^カ 顔 万葉集にありて云々
○^カ 顔 万葉集にありて云々

○^カ 顔 万葉集にありて云々
○^カ 顔 万葉集にありて云々

○^カ 顔 万葉集にありて云々
○^カ 顔 万葉集にありて云々

○^カ 顔 万葉集にありて云々
○^カ 顔 万葉集にありて云々

○^カ 顔 万葉集にありて云々
○^カ 顔 万葉集にありて云々

○^カ 顔 万葉集にありて云々
○^カ 顔 万葉集にありて云々

はるの神をて多神
りあふあふはるの神を
たふて

▲上久の山あふ系
ちあふあふの神を
たふて

▲神の供は巡りて親
まの巡りて親の
能侍とて親の

▲神場のまの親の
かたふ

▲神の供は巡りて親
まの巡りて親の
能侍とて親の

▲神の供は巡りて親
まの巡りて親の
能侍とて親の

▲神の供は巡りて親
まの巡りて親の
能侍とて親の

○神示 万の夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて
万神示の水戸へて夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて

○神示 万の夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて
万神示の水戸へて夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて

○神示 万の夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて
万神示の水戸へて夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて

○神示 万の夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて
万神示の水戸へて夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて

○神示 万の夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて
万神示の水戸へて夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて

○神示 万の夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて
万神示の水戸へて夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて

○神示 万の夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて
万神示の水戸へて夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて

○神示 万の夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて
万神示の水戸へて夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて

○神示 万の夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて
万神示の水戸へて夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて

○神示 万の夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて
万神示の水戸へて夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて

○神示 万の夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて
万神示の水戸へて夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて

○神示 万の夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて
万神示の水戸へて夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて

○神示 万の夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて
万神示の水戸へて夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて

○神示 万の夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて
万神示の水戸へて夜ふし里神示山神示万神示の内、今ふて

○**賞** カッ ところまた又るあふり
賣と面をーうと出
○**髪** ガ さいふは後まふとるを
停かかふとるをー

○**通** カヨフ ところ風あふとる
何れも面をー

○**髪** カミ ところ髪を白髪とるを
髪眉を結おれいけとるを
髪面を白髪とるを

○**鏡** カミ ところ鏡を
水鏡とるを鏡解えとる

○**金** カネ ところ金
声別れい面を金とるを

○**征** カキ ところ征
足裏の指を征とるを

○**竹** カキ ところ竹
車竹とるを竹とるを

○**煙** カシ ところ煙
煙中とるを煙とるを

○**紙** カミ ところ紙
紙子とるを紙とるを

○**刀** カタナ ところ刀
小刀とるを刀とるを

○**桂** カシ ところ桂
桂川とるを桂とるを

○**掛** カケ ところ掛
掛とるを掛とるを

○**芳** カハシ ところ芳
白芳とるを芳とるを

○**香** カウ ところ香
香とるを香とるを

○**聲** カサ ところ聲
二声とるを聲とるを

○**白** カハシ ところ白
白とるを白とるを

○**歩** カキ ところ歩
面を歩とるを

○**鏡** カミ ところ鏡
鏡面とるを

○**金** カネ ところ金
金とるを金とるを

○**征** カキ ところ征
征とるを征とるを

○**竹** カキ ところ竹
竹とるを竹とるを

○**煙** カシ ところ煙
煙とるを煙とるを

○**紙** カミ ところ紙
紙とるを紙とるを

○**刀** カタナ ところ刀
刀とるを刀とるを

○**桂** カシ ところ桂
桂とるを桂とるを

○**掛** カケ ところ掛
掛とるを掛とるを

○**芳** カハシ ところ芳
芳とるを芳とるを

○**香** カウ ところ香
香とるを香とるを

○**聲** カサ ところ聲
二声とるを聲とるを

○**白** カハシ ところ白
白とるを白とるを

○**香** カウ ところ香
香とるを香とるを

○**白** カハシ ところ白
白とるを白とるを

鴨 鴨の字は鴨の字に
カモ

尾 尾の鴨の字は鴨の字に
カモ

鴨 鴨の字は鴨の字に
カモ

鴨 鴨の字は鴨の字に
カモ

○か 鴨の字は鴨の字に
カモ

○鴨 鴨の字は鴨の字に
カモ

○皮 鴨の字は鴨の字に
カモ

○楽 鴨の字は鴨の字に
カモ

○敵 鴨の字は鴨の字に
カモ

○粒 鴨の字は鴨の字に
カモ

○鳥 鴨の字は鴨の字に
カモ

○生 鴨の字は鴨の字に
カモ

○櫃 鴨の字は鴨の字に
カモ

○尾 鴨の字は鴨の字に
カモ

○書 鴨の字は鴨の字に
カモ

○肩 鴨の字は鴨の字に
カモ

○輪 鴨の字は鴨の字に
カモ

○器 鴨の字は鴨の字に
カモ

○売 鴨の字は鴨の字に
カモ

○株 鴨の字は鴨の字に
カモ

○磔 鴨の字は鴨の字に
カモ

○瓶 鴨の字は鴨の字に
カモ

○浮 鴨の字は鴨の字に
カモ

○乾 鴨の字は鴨の字に
カモ

○芥 鴨の字は鴨の字に
カモ

○渠 鴨の字は鴨の字に
カモ

○猪 鴨の字は鴨の字に
カモ

○必 鴨の字は鴨の字に
カモ

○三 鴨の字は鴨の字に
カモ

○四 鴨の字は鴨の字に
カモ

○五 鴨の字は鴨の字に
カモ

○六 鴨の字は鴨の字に
カモ

○七 鴨の字は鴨の字に
カモ

○八 鴨の字は鴨の字に
カモ

○九 鴨の字は鴨の字に
カモ

○十 鴨の字は鴨の字に
カモ

○渣 鴨の字は鴨の字に
カモ

○要 鴨の字は鴨の字に
カモ

○欣 鴨の字は鴨の字に
カモ

○出 鴨の字は鴨の字に
カモ

○搔 鴨の字は鴨の字に
カモ

○撮 鴨の字は鴨の字に
カモ

○欠 鴨の字は鴨の字に
カモ

○旦 鴨の字は鴨の字に
カモ

▲ふれ時なれ時
折るふれ時あるふれ
折るふれ時あるふれ
折るふれ時あるふれ

▲呼子音
ふれ時なれ時
折るふれ時あるふれ
折るふれ時あるふれ
折るふれ時あるふれ

○^{カスル}兼^カち

○^{カキ}痒^カる

○^{カキ}か^カつ

○かいたれ時
二るまふれ時二るまふれ時

○^カう
二るまふれ時二るまふれ時

○^カあ
二るまふれ時二るまふれ時

○^カい
二るまふれ時二るまふれ時

○^カう
二るまふれ時二るまふれ時

○^カう
二るまふれ時二るまふれ時

○^カう
二るまふれ時二るまふれ時

よ

▲^カ草^カ雅^カ
▲^カ草^カ洞^カ太^カ肉^カの^カく
▲^カ草^カの^カ中^カの^カ虫^カの^カ事^カ
▲^カ草^カの^カ中^カの^カ虫^カの^カ事^カ

○^カ代^カ
二るまふれ時二るまふれ時

○^カ宵^カ
二るまふれ時二るまふれ時

○^カ摸^カの^カ字^カ
二るまふれ時二るまふれ時

○^カ蓬^カ
二るまふれ時二るまふれ時

○^カ草^カ生^カの^カ宿^カ
二るまふれ時二るまふれ時

○^カ草^カの^カ宿^カ
二るまふれ時二るまふれ時

○^カ形^カ
二るまふれ時二るまふれ時

○^カ形^カ
二るまふれ時二るまふれ時

醫學の八つを要せしむ
修序世に傳ふもの
物ありんかえとる改
併らんの物らんあう
物そこよりあふさ
ふゆふてきまへ

○夜と待月

夕時ふくと夜ふ
ふとあふと

○ 宿星

秋之夜さむく又ハ夜
さむくハあそび

○
宿

二夜半 夜中の内^ニ今^ニ上^ニ三^ニ夜^ニ上^ニあり
二夜あり 夜半と云^ト 夜明と云^トの^ト

○
子
子

是も二餐あり夜とやと上
世と上と上
何れも物をうて一餐あり

○
夜半
サム

○夜門 カト 多之

○夜離カレ

○ 夜たゞ 夜と云ふ

○夜と

○夜奥ヨコウヒク 冬

夜の陣、
朱堂に在りて候より
ていそ

○夜ヨルの衣ユとシも

卷之五

○夜ヨルの錦ニギハヤ

新秋對婦人

讀

○弱

○

平

歌

○ 耘 ヨソヲ 云

○

依ヨシテ
男

万

歩て去る物走

能
三句をく

よき

せよ乃よホ、
下知二るを

○ろ

二るをより
う二るを

た

1

楊蜜柑

撫民ト又万民ノ
久年勤王ノ撫
撫民ト又万民ノ

張
二百五

○**水張** 水張り 水張り

燒原 多クモ
多クモ

○^{タキ}蕨 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

○^{タキ}新 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

○^{タキ}たどり 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

○^{タキ}堂 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

○^{タキ}柵 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

○^{タキ}七夕 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

○^{タキ}便 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

○^{タキ}たづね 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

○^{タキ}たづね この字は、万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

○^{タキ}この字 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

○^{タキ}この字 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

○^{タキ}この字 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

○^{タキ}この字 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

○^{タキ}この字 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

○^{タキ}この字 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

○^{タキ}この字 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

△^{タキ}新 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

△^{タキ}新 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

△^{タキ}新 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

△^{タキ}新 万葉集に非なく、面をやく、万葉集の字に万葉

○**た** タ 例もあつて

○**例** タメ 例もあつて

○**な** タメ 例もあつて

○**緩** タメ 例もあつて

○**速** タメ 例もあつて

○**剛** タメ 例もあつて

○**脚** タメ 例もあつて

○**方** タメ 例もあつて

○**堅** タメ 例もあつて

○**壁** タメ 例もあつて

○**扣** タメ 例もあつて

○**岳** タメ 例もあつて

○**名** タメ 例もあつて

○**他** タメ 例もあつて

○**給** タメ 例もあつて

○**忽** タメ 例もあつて

○**裁** タメ 例もあつて

○**性** タメ 例もあつて

○**為** タメ 例もあつて

○**牙** タメ 例もあつて

○**た** タメ 例もあつて

○**た** タメ 例もあつて

○**た** タメ 例もあつて

○**体用** タメ 例もあつて

○**体用** タメ 例もあつて

▲体用のしるし金や
本文字の初め
体用も金や
末のしるし金や
あつて

○**れ** タメ 例もあつて

○**例** タメ 例もあつて

○**例** タメ 例もあつて

物ふんちん

者ありて例の人と

矢野龍溪

▲ 昔の如くより
季と色揃へー

癩病面癩の病の名に之を云

子新姑齡麻子齡

○道

急今之

○五

曆の字を云の字

○瘰癧

うろく

○未

後彌平とものゝやあつたこと

只白矣一

延

拍燈

○ 卷八

種口
も口
あ

人

費

○

二六六



二百五十四國其言七為玄

否下之民不與物之

○あひ

面

三句云、物面より若し

○袖の

▲空王の字ニ有る
 そと唱へ七句を
 空海を也水む新
 の唱へ空王の
 ▲そと焼の意に空
 七句をそと外を
 と唱へ七句を
 其の意に面を

東洋の金銀貨幣
の歴史と地理
の歴史と地理
の歴史と地理

此はがれ赤きとひて
 ほとがれの畧位あり
 鐵板及之を人物に
 垂てておぼへ
 折ておぼへ

月二面一裏見ておと
 名所の裏におとふとハ
 名所ハおとて月見た
 二役あそびつたりて裏
 おとてやも秋は月ノ
 おとてよりさるるころ
 ともおとて名所の裏
 別におとての中へおと
 月とあそび名所の裏
 台もさるるころとて
 ともおとてとてとて
 後世とてとてとて
 初面の月とてとて
 変るるころとてとて
 の内におとてとてとて
 月先とてとてとて
 其の月とてとてとて
 百とてとてとてとて
 おとてとてとてとて
 とてとてとてとてとて
 季とてとてとてとて
 月とてとてとてとて
 秋の月とてとてとて
 おとてとてとてとて

▲ 長夜とわひと
中秋の月と照る

芳重中。高夜中。軟上弦。下弦。盡の光。常嫁の軟。皆月の長。是

△當に取集付るを
心得るべし

○椿
ある者はあるは枝の他枝の所へ行くは二つの肉を

○ 椿市狂條
又みえー

○ 綱ツナ 折マ之レてス又マくス繩ツナ面オモ去リ

▲椿市、奈國、名也。

○物
下あはえ舟・海士付く今くくを執約ハ又及く
生類あくと治ル案ホ内品くく今くく

大いふふふふふ
面を白くする
口を細くする

△司及くの委
その名をあり

○土 ツチ
ろ声、ろ天地面を
天地、ろちろのち

○壤 ツダ
ろ其の汚生、果モ其
ゆるハ秋

○蔓 ワル
ろ蔓、ろ蔓
似物面を

○朔日 ツイタチ
ろハ初又ハ一
晦日モ

○教 ツミ
ろ羯鼓又ハ一
ほろが流又ハ一

○罪 ツミ
ろ罪科、ろ

○塚 ツタ
ろ名、ろ塚、ろ墓折
一里塚モその内

○苞 ツト
ろて、ろ去産、面
但ろ、ろ

○莠花 ツバキ
ろ其の莠ノ苗
莠、ろの内

○荅 ツボミ
ろ本、ろ入て、ろ
似物面を

○弦 ワル
ろ入て、ろ
蔓、面を

○砾 ワラテ
ろは、ろ文字、ろ

○兵 ツバキ
ろ人、ろへ、ろ
人、ろ

○司 ツボミ
ろ、ろ人、ろ
司、ろ

○去産 ツト
ろ、ろヤ、ろ

○苞 ツト
ろ、ろ面、ろ
去産、ろ

○包 ツム
ろ、ろ内、ろ

○拙 ツタナキ
ろ、ろ

○面 ツラ
ろ、ろ人、ろ、ろ
ろ、ろ面、ろ

○頰 ツクリ
ろ、ろ、ろ面

○筒 ツバ
ろ、ろ筒、ろ
井、ろ

○強 ツヨキ
ろ、ろ、ろ
ろ、ろ

○番 ツカヒ
ろ、ろ

○績 ツグ
ろ、ろ、ろ

○唾 ツハキ
ろ、ろ、ろ

○屑 ツボチ
ろ、ろ

○氷柱 ツラ
ろ、ろ水面、ろ
ろ、ろ、ろ

○角 ツカ
ろ、ろ細、ろ角、ろ
言、ろ角面、ろ

○柄 ツカ
ろ、ろ入て、ろ

○効 ツト
ろ、ろ、ろ

○圪 ツミ
ろ、ろ、ろ

○次 ツグ
ろ、ろ、ろ、ろ

○^{ツイデ}席^ヲ

○^{ツル}作^ヲ

○^{ツル}岩^ヲ

○^{ツイ}對^ヲ

○^{ツル}疲^ヲ

○^{ツク}續^ヲ

○^{ツク}突^ヲ

○^{ツル}怯^ヲ

○^{ツメル}積^ヲ

○^{ツカム}抓^ヲ

○^{ツグ}墨^ヲ

○^{ツル}法^ヲ

○^{ツム}摘^ヲ

○^{ツカス}束^ヲ

○^{ツクス}書^ヲ

○^{ツル}諸^ヲ

○^{ツイ}終^ヲ

○^{ツク}足^ヲ

○^{ツル}付^ヲ

○^{ツル}連^ヲ

○^{ツラ}行^ヲ

○^{ツル}行^ヲ

○^{ツル}一^ヲ

○^{ツル}二^ヲ

ね

○^{ツル}困^ヲ

○^{ツル}七^ヲ

○^{ツル}八^ヲ

○^{ツル}疲^ヲ

○^{ツル}七^ヲ

○^{ツル}八^ヲ

○^{ツル}疲^ヲ

○^{ツル}七^ヲ

○^{ツル}八^ヲ

○^{ツル}疲^ヲ

○^{ツル}七^ヲ

○^{ツル}八^ヲ

○^{ツル}疲^ヲ

○^{ツル}七^ヲ

○^{ツル}八^ヲ

○^{ツル}疲^ヲ

○^{ツル}七^ヲ

○^{ツル}八^ヲ

○^{ツル}疲^ヲ

○^{ツル}七^ヲ

○^{ツル}八^ヲ

○波の花
あはれ極物に盡
○波の雪
あはれ極物に盡

○波の病
秋と浮物と
波の糸は難く

○波枕 強し寝か
ふよりてあり

○ 隻
季之文字也。白玄之
夏之疾。痼疾折也。

○五月 五、六、七、八、九、十、十一、十二、

○
流なが　　三ろあるを流して三ろの肉を流し流す三ろの肉あり
面を流す一流水のあり非ハ七を去るあり

○ 渚 ナキナ
 云々云々云々云々
 云々云々

○何の字
二万をいふの字
付くは、お然、お然

○ 雅波 ナニハ 水也。雅波地名。雅波津。雅波江。ハ水也。雅波江。りも水也。雅波津。の哥。水也。越。雅波。波。水也。

○
 中々 万々 人傷 非々 仲人 人々 人傷 中々 又々 一々 嬢 中々
 嬢 立字 二向 我中 妹背 の中 六面 と 嬢

○
麻^{マヒク} 久^{キウ}て^ニち^チあ^アえ^エー
た^タく^クニ^ニち^チあ^アえ^エ

○
等^{ナラザリ}閑^{カン} 声^{ナラ}今^{イマ}ち^チあ^アえ^エー
た^タく^クニ^ニち^チあ^アえ^エ

○習ナラフ
二を去る
二を去る

○訓ナの字
七を去る
二を去る

▲ 雜波ト云フは、
 と云ふなり
 ▲ 智ハ師ニ智ハ人ニを
 仿ルニ六訓の名ニ
 訓ニ二白を云フ地ニ
 と云フ訓ニ智ニ
 といふなりと云フ
 訓ニ二白を云フ地ニ
 と云フ訓ニ
 ▲ 世のありて世の風俗
 と云フ智ニ拘きて
 訓ニありて二白を

○おでーこ
ろしとあつろ
石竹と折えて良
○
梨カの衣
ろ甚ん衣、秋ん
梨壺又あふ

○**中**の字

○ 中 ナカバ ニ中ニるを
 声てハハミル也

○ 正 ナカラ の字
 七白をミルを

○
ナガラヘ
命令
命令に依て二つを去る
○
ナギ
命令
命令に依て二つを去る

○ 竹と毛の刺 山勢

○也。あゝとあゝ。あれとあれ。
はてふはの字
二ををえ

○也
あれあれやあろあろ
あらん木付白と煙入

○
ナル
ぬの字
三ふまてふけの
あつむえむあ屋

○あれや。あ。あ。ん。けろろの歌七るをん
とありはへアな。三の如く

瞿麦 註ニ子ニおほ
 人傳の子にけりけり
 子式ニ去ヘ
 中祚 祚宮ニ因
 々々々人の祚として
 天ヲ祚のもの
 委ニ曆者ニ可考
 中意ニ妹のもの
 中門ハ教系極門
 中門ハ極系の海
 一氣流入てん
 〆〆〆

▲也ハ文字五ト云々
て云ハ何れハ云々
▲也ト云ハ云々
▲云々ト云ハ云々

○おん おんおんハてすん ○おふり いふおんハてすん

○お文字 物おんハてすん たひは二る家去へ

増 ○お孫 お孫ハてすん ○縄 お孫ハてすん

○お折 お折ハてすん ○鍋 お折ハてすん

○お天 お天ハてすん ○茄子 お天ハてすん

○お大 お大ハてすん ○糸 お大ハてすん

○七 七ハてすん ○長 七ハてすん

○長 七ハてすん ○長 七ハてすん

○永 永ハてすん ○永 永ハてすん

○生 生ハてすん ○曙 生ハてすん

○沈 沈ハてすん ○汝 沈ハてすん

○直 直ハてすん ○拉 直ハてすん

○灘 灘ハてすん ○拉 灘ハてすん

○薙 薙ハてすん ○腦 薙ハてすん

○唯 唯ハてすん ○髑 唯ハてすん

○あ あハてすん ○あ あハてすん

▲らんけん二百五之あり
 又六面ニ百五之あり
 ▲らんけん知ん知ん
 ら文字と付板二字
 ものらん知ん
 知んといふ三
 らんといふ三
 知んも知ん

○ 蘭 ラン
ふちぢぢふト秋
えト唄うひと

○
知_レの字

○
礼世礼後
あづかる
素ハありてみれ素ハありとそ
のむれ今アあり一礼素トある

○
礼^レ舞^ブ
ともく又みえしと拍子に拍子又ハ白拍子拍子本
中礼舞はくくよひし

○らー^トら[。]ん^トん[。]ら^トん[。]
 第二卷

○ えん
ホウリウ一字を稱するは二るをえとあり
あふ稱は付ともうりうと

○え
てやんもんちんホの一字を孫ハおもふ様うん
えんもんちんの二字をハ二白様え

○
らん
らんあゝわゝ法々水何處もろふ

増
○
欄干
又

○ 埒^{ラチ} 乃^ニ埒^七を去^へー言^ハの
らち又^マあ^ハえー

○
活人
ラウニ
ろ本懐く

○ 囁 囁 夜を待つてふより

○ 楽 ラク えんたのこ

○ 礼部
云云

○ 廊 ラウ 乃石所之梯ニ上ル

ラウサイ
癰腫
病名之云々用男
と云ふ白ク

[illegible]

○
老翁ラウフウ
老婢ライビ人傷ヒトケ

○老翁ニヤク人備非ス
 老翁ニヤク人備非ス

○
振ラウセキ 振ラウセキ
振ラウセキ 振ラウセキ
振ラウセキ 振ラウセキ

○ 来 ライ くるくるともふ
 皆くるる



▲ 東嶽ありぬ老とハ
老多老女の新ニ
お水の字ニアル

蠶カ蛸キリ
蠶カウ蛸キリ

蛸 ヒクラシ
 乞ム秋ふれとも
 ちふふハ服ス

各別之面あり

青蛉アヲ
蛸タコ

コガ子ムシ

金龜子毛虫
以分食之

▲ 吉丁虫 雜之

▲ 苞气種 或ハハル

のちどくするに
去へ

▲梅の葉は冬に
も梅のよう

○
カシ
若
二子ても二の内へ赤懐へ
いみへ面をうたへる姫

○
若
うてうていへ
二子姫へ

○
村^{ムラ} 云々云々人住村々云々云々里石付松の一むろ云々
村の字ハ云々云々村々村々の類云々村紅松松ひき系云々松樹云々七云々

○
村^{ムラサノ} 云村ニ百をぬ七をえ
蠻人の多きも云の因之

○
最^{クサムラ} 云村ニ百をえ

○ 解 ムカール 罵る處ても罵の内之
村の字ニ百姫ノ下

○ 本家のむろ村、字ニ
生駒のむろハ解、字ニ

○^{ムシロ} 芭 二 芭^ハ非^ヒ夜^ヤ名^ナの芭^ハ
又^{マタ}芭^ハ上^{カミ}二^ニ小^コ芭^ハ也^{ナリ}二^ニ肉^{ニク}也^{ナリ}

○ 芭 夜^ヤ名^ナ非^ヒ芭^ハ

クサムシヨケムシヨ
子道苦を
極揚て安ト
よしの夜令
○
○
席田
ハシロタ
英流の糸和
道三の和

○梅 去之只^レ紅梅^ト白梅^ト内^ニ之^ヲ本^ニ之^ヲ梅^ト類^ニ之^ヲ梅^ト于^ニ梅^ト深^ニ梅^ト壺^ト木^トの内^ニ之^ヲ以上^ニ之^ヲ梅^ト取^リ黄^ニ梅^ト杯^ト六^ニ内^ニ之^ヲ

○馬
る駒のふけるはまゝく駒の内にて是にて下るる係糸の内にて
る駒の上より出てぬきし由よその年ると七白を駒とて白を

○
三クレ
る 締 る 約の折婦ふ
生類の二白娘ふ

○
三クサ
糸 る 約七白去へる二白去
らうた柳振おろし娘

○ 子燭 子約七白去人生乳
二白去之

○ る^ニ子^ゴる^ム司^{カク}
る^ル約^{ヨク}七^{シチ}る^ルま^マん
人^{ヒト}備^ビく^ク生^{ナマ}ぬ^ヌ云^{イハレ}云^{イハレ}

○ 厩^{ムヤ}
る^ル約^{ヨク}二^ニ面^{メン}屋^ヤ

○馬
人名ある馬をいへるの字或は蔭る蒜硯の名乃
蹄又牛の足がはる七の玄駒をいへるを

○ するのむふじけ するのむふじけ
体別あり

○
馬ウマ 車クルマ 竹タケ 雲クモ 雲クモ 物モノ
おろし

○埋^{ムネル}
うづひなをさく
うづひなをさく

○埋^{ムネレキ}
柿揚げおろしをうづひなをさく
うづひなをさく

1

五

宝象之拍石

うづげてハキ
うづぐく

▲鶴衣の短衣の
秋衣のゆふき
はゆふ

▲卯のねを
うづげてハキ
うづぐく

▲支千の卯を
うづげてハキ
うづぐく

▲羅の白う紋
うづげてハキ
うづぐく

▲袴の袴
うづげてハキ
うづぐく

▲袴の袴
うづげてハキ
うづぐく

▲袴の袴
うづげてハキ
うづぐく

▲袴の袴
うづげてハキ
うづぐく

▲袴の袴
うづげてハキ
うづぐく

▲袴の袴
うづげてハキ
うづぐく

▲袴の袴
うづげてハキ
うづぐく

○ 鬼 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 卯のね 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ ね 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 鱗 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 植 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 移 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ うづ 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 埋 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 卯 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 卯杖 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 浦 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 魚 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 植田刈田 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ うづ 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 膚 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 上 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 産 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ おの字 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 鴉 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 海 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 字 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 牛 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 靱 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 謡 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ うづ 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ おの字 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 鴉 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 孟蘭盆 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 字 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 腕 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 羨 万月の鬼をうづ
うづぐく

○ 謡 万月の鬼をうづ
うづぐく

ウチハニ 居於座ニ
是於座ニ 居於座ニ
二ハニ 居於座ニ

後人 傷ニ 傷ニ

○ 臼 ウス
ろろろと 碓の内ニ
今ろろろ

○ 仙 ウリ
ろろろと 仙のろろ
ろろろと 仙のろろ

○ 蕭 ウラカ
ろろろと 蕭のろろ
ろろろと 蕭のろろ

○ 湊 ウツ
ろろろと 湊のろろ
ろろろと 湊のろろ

○ 初 ウイ
ろろろと 初のろろ
ろろろと 初のろろ

○ 姥 ウバ
ろろろと 姥のろろ
ろろろと 姥のろろ

○ 畋 ウチ
ろろろと 畋のろろ
ろろろと 畋のろろ

○ 生 ウツ
ろろろと 生のろろ
ろろろと 生のろろ

○ 萍 ウキ
ろろろと 萍のろろ
ろろろと 萍のろろ

○ 凍 ウレ
ろろろと 凍のろろ
ろろろと 凍のろろ

○ 現 ウツ
ろろろと 現のろろ
ろろろと 現のろろ

○ 置 ウチハ
ろろろと 置のろろ
ろろろと 置のろろ

○ 内 ウチ
ろろろと 内のろろ
ろろろと 内のろろ

○ 疎 ウツレ
ろろろと 疎のろろ
ろろろと 疎のろろ

○ 後 ウレロ
ろろろと 後のろろ
ろろろと 後のろろ

○ 吁 ウツ
ろろろと 吁のろろ
ろろろと 吁のろろ

○ 致 ウツ
ろろろと 致のろろ
ろろろと 致のろろ

○ 空 ウツ
ろろろと 空のろろ
ろろろと 空のろろ

○ 産 ウツ
ろろろと 産のろろ
ろろろと 産のろろ

○ 氏 ウツ
ろろろと 氏のろろ
ろろろと 氏のろろ

○ う ウツ
ろろろと うのろろ
ろろろと うのろろ

○ 娘 ウツ
ろろろと 娘のろろ
ろろろと 娘のろろ

○ 伺 ウツ
ろろろと 伺のろろ
ろろろと 伺のろろ

○ 愁 ウレヒ
ろろろと 愁のろろ
ろろろと 愁のろろ

○ 欠 ウツ
ろろろと 欠のろろ
ろろろと 欠のろろ

○ 費 ウツ
ろろろと 費のろろ
ろろろと 費のろろ

○ う ウツ
ろろろと うのろろ
ろろろと うのろろ

○ う ウツ
ろろろと うのろろ
ろろろと うのろろ

○ 類 ウツ
ろろろと 類のろろ
ろろろと 類のろろ

○ 初 ウツ
ろろろと 初のろろ
ろろろと 初のろろ

ね

付物始十月十六日
天子より此後あり
付物始ありハ相立其贈
りあり緒りあり秋
相撲もありあり

○ 付^{井ル}
 ところの付^ルは折^ルて又^ハ以^テ
 切^ルの奥面^ニ去^ル

井ハハジメ
村場始
十月十六日

○田舎 井十カ
 了鄙面去勢子屋
 福付台屋人



聖
 原
 二方去傳
 田面ノ原
 石原川原亦ハ有
 石原

○の
子孫一白之類
三白表

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

△聖田と符のり

○聖とセ
ろるのせろのセホ、ろりてろるろろろーセ文、
西せろホ面は皆換のろろろ換衣換甚ろろ

○聖山とやく
まろろろろ
おろろろ

○聖分
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○聖とま
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○水
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○七閑
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○銭
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○儲ろ
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○聖山の盤
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○聖遊
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○水の玉水
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○聖
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○張暑
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○荷前使
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○能の服
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○暖簾
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○海苔
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○服
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○後
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○盤
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○延
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○拭
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○系
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○系
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

△儲ろ
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○儲ろ
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

○儲ろ
ろろろ 秋と聖字分字
二ろろ

二六五
とありハ二六五入

万葉とて恋懐くも秋樹本の石より上りてく不老の石を尋
 木の恋懐の心ありぬるそのか面うてありー齡ヨイ二るをく

打つて出す

老
二
老
老

親より上とて人倫の親子より玉子ホハナ

の字
三白と云

建仁寺の落葉と申すは、今も有りても落葉の如く

源氏女との交好表の事

つ秋之化の季の萩乃後萩トテ声唱く乃乃上宮之物也
○萩の季萩をよりく萩を知らく木風俤ニ云云

の焼糸萩の下^{モ、}萩の糸萩^{皆基}茂^荒拵^{ハミ}

てね世をひきとて火の跡を
れい火おろし姫

思を二るまゝ

只可意會

二つを思ふ程
○
思ふ程を思ふ程

家本の祭日月おま
 りりくハズル家と

天下のありは
んゆあう人

○生 オニ 二つ葉生面をさする

○葉 オニキ 二つ葉とある二つ葉

○質 オフ 質

○類 オヒキ 類

○表 オトコ 表

○月 オシ 月

○多 オシ 多

く

▲熊一虎とあること
とて熊一虎とあること
熊一虎とあること
熊一虎とあること
熊一虎とあること

▲車、小車の花
花、小車の花
花、小車の花
花、小車の花
花、小車の花

○熊 ク 熊一虎とあること
熊一虎とあること
熊一虎とあること
熊一虎とあること
熊一虎とあること

○車 クルマ 車、小車の花
車、小車の花
車、小車の花
車、小車の花
車、小車の花

○葉 オニ 二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること

▲花、小車の花
花、小車の花
花、小車の花
花、小車の花
花、小車の花

▲牧童、苗、熊、花
牧童、苗、熊、花
牧童、苗、熊、花
牧童、苗、熊、花
牧童、苗、熊、花

▲花、小車の花
花、小車の花
花、小車の花
花、小車の花
花、小車の花

○葉 オニ 二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること

○葉 オニ 二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること

○葉 オニ 二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること

○葉 オニ 二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること

○葉 オニ 二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること

○葉 オニ 二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること

○葉 オニ 二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること

○葉 オニ 二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること
二つ葉とあること

○異竹の伏見
竹、云々云々
亦、抑揚二云云

▲呉竹の依りて
依りての松竹を
呉竹と云ふ

▲下を唱ふ時
ふとふとふと
ふとふとふと

▲位山飛騨の園の
名所を
串持板と云ふ

○紫 万葉集に紫藤花の
紫藤花の藤花

○振 万葉集に振舞ひの
振舞ひの

○下 万葉集に下を唱ふ
下を唱ふ

○増 万葉集に増の位
増の位

○釘 万葉集に釘の
釘の

○噓 万葉集に噓の
噓の

○喰 万葉集に喰の
喰の

○管 万葉集に管の
管の

○紫玉 万葉集に紫玉の
紫玉の

○山抱子 万葉集に
山抱子の

○串 万葉集に串持板
串持板

○花 万葉集に花の
花の

○口 万葉集に口の
口の

○餅 万葉集に餅の
餅の

○括 万葉集に括の
括の

▲紅花の依りて
依りての松竹を
紅花と云ふ

○万 万葉集に万の
万の

○角 万葉集に角の
角の

○栗 万葉集に栗の
栗の

○蛇 万葉集に蛇の
蛇の

○園 万葉集に園の
園の

○葛 万葉集に葛の
葛の

○葉 万葉集に葉の
葉の

○云家 万葉集に云家の
云家の

○鞍 万葉集に鞍の
鞍の

○唇 万葉集に唇の
唇の

○桃 万葉集に桃の
桃の

○く 万葉集にくの
くの

○害 万葉集に害の
害の

○畔 万葉集に畔の
畔の

○江 万葉集に江の
江の

